

此番号割符ハ入營迄丁寧ニ所持シ若シ損傷遺失スルハ速カニ戶長ニ届出ヘシ○現役當籤ノ者戶長ヨリ入營時日ノ達ヲ受ケルトキハ此割符ヲ所持シ入營ノ上之ヲ其隊ニ納ムヘシ○現役當籤者入營迄ハ五日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ出ツルヲ許サス○入營期ニ臨ミ疾病犯罪等ニテ入營シ難キトキハ事實ヲ詳記シ疾病ノモノハ醫師診斷書ヲ添ヘ即日戶長ニ届出ヘシ其事故止ムトキ亦同シ若シ事故延テ十五日以上ニ及フトキハ最初届出ノ日ヨリ三十日毎ニ届出其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ此割符ヲ添ヘ同月十五日限り戶長ニ差出スヘシ○入營前甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戶寄留スルトキハ即日戶主ヨリ甲府縣戶長ニ届出又乙府縣ニ到着ノ上ハ此割符ヲ添ヘ同様届出又本人ヨリ甲乙府縣郡區駐在官ニ届出ヘシ○補充員ニシテ入營ヲ命セラレタル者入營迄ノ心得ハ現役當籤ノ者同様

心得ヘシ○補充員入營ノ期ニ臨ミ疾病犯罪ニテ入營スルコト能ハサルトキハ事實ヲ詳記シ此割符ヲ添ヘ疾病ノ者ハ醫師診斷書ヲ添ヘ戶長ニ届出ヘシ○補充員ハ十日間ニ往復スルコト能ハザル地ニ出ルヲ許サス若シ己ムヲ得タル事故ヲ生シ其日限ヲ越ル地ニ出ント欲スルトキハ事實并ニ往先ヲ詳記シ戶長郡區長ノ與書証印ヲ受ケ郡區駐在官ニ出願スヘシ○補充員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戶主又ハ親族ヨリ三日以内ニ戶長ニ届出ヘシ○補充員ニシテ甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戶寄留スルモノハ現役當籤者ノ例ニ據ルヘシ○補充員服役年期ハ現役兵ト同シ四月二十日ヨリ起算シ滿一箇年ノ後ハ別ニ命ナシテ第一豫備徵員ニ編入セラレタルモノト心得ヘシ○第一豫備徵員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戶主又ハ親族ヨリ三日以内ニ戶長ニ届出ヘシ○第一豫備徵員ニシテ十五日間ニ往復スルコト能ハ

サル地ニ旅行セント欲スルトキハ其往先ヲ詳記シ戸長郡區長ヲ經テ郡區駐在官ニ届出然ル後旅行スヘシ尤其届書ニ旅行中徵集ノ命アルトキハ之ヲ通報スヘキモノ、姓名住所ヲ記入スヘシ○第一豫備徵員ハ年齢滿二十八歳トナル年ノ四月ニ至レハ此割符郡區駐在官ニ納ムヘシ

以下
(徵兵人別表雛形) 零之
(徵兵検査表雛形) 零之
(身幹度尺之圖)

○告第二號十七年十一月四日陸軍省告示

明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿貳拾歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令第貳拾八條乃至第三十一條及ヒ第三十四條ニ依リ免役又ハ徵集猶豫ニ属スル者常備年期ノ第七年検査時限内ニ在テ名稱ヲ罷メタルキハ更ニ徵集スヘキ儀ニ付本年九月十六日以後其名稱ヲ罷メタルキハ新徵兵令第三十六條ニ據リ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出ヘシ

此旨告示候事

但本文ノ届出ヲ爲サ、ルキハ新徵兵令第四十一條及ヒ第四十三條ニ據リ所分スヘキモノトス

○達甲第三拾九號十七年九月六日陸軍省達

府縣 沖繩根室札幌
ノ三縣ヲ除ク

徵兵事務條例第二十三條及第三十條ニ據リ郡區長ハ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿ヲ製シ各自届書人別表其他書類ト共ニ郡區駐在官ニ送付可致儀ニ候處當分之内壯丁名簿壯丁異動名簿ノミ駐在官ニ送致シ該官ニ於テハ其名簿ノ卷未ニ署名押印シ郡區長ニ返付ス可キ儀ト可心得此旨相達候事

○第八十四號十七年十月十四日達

官省院廳府縣

明治十六年 月 日 第四十六号布告徵兵令第二十一條ニ據リ

徵集猶豫伺出ノ節ハ本人履歷並其技術ニ係ル明細書ヲ添フヘシ此旨相達候事

○甲第四十二号十七年十月二十二日陸軍省達

徵兵事務條例第十一條ノ地方醫員ノ儀ハ明治九年一月内務省乙第五号達ニ據リ醫術開業免狀授與ノ者ヲ以テ之ニ充ツヘシ此旨相達候事

但九年内務省乙第五号達ノ免狀授與ノ者不足スル府縣

ニ在テハ當分本年同省乙第四号達ニ據リ免狀授與ノ者ノ中適任ノ者ヲ撰ヒ交用スルモ不苦候事

○乙第四十一号十七年十一月廿一日内務省達

府縣函館 沖繩 札幌 根室ノ四縣ヲ除ク

明治十三年十一月十一日内務省乙第四十二号ヲ以テ徵兵下検査ニ

係ル經費支出方相達置候所今般徵兵令改正ニ付テハ検査所へ往復スル檢丁ノ旅費及ヒ検査所諸費ハ本廳經費ノ内

徵兵費ヨリ支辨スル儀ト可心得此旨相達候事

○達甲第四拾九號十七年十二月四日陸軍省達

府縣沖繩 札幌 根室ノ三縣ヲ除ク

明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリ

タルモノニテ適齡ノ當時舊徵兵令第貳拾八條第三項第四

項若クハ第貳拾九條第一項ニ據リ嗣子承祖ノ孫及ヒ相續

人ノ名稱ヲ有シ免役ニ屬シ新徵兵令發布後常備年期間ニ

在テ戸主隱居シ其跡ヲ繼キ戸主トナリ前戸主年齢六十歳

未滿ナル時ハ徵兵事務條例第一百五十三條第一百五十四條前

段ニ據リ徵集スヘキ儀ニ候處本年各府縣徵兵抽籤ノ當日

迄ニ免役名稱ヲ罷メ更ニ免役名稱ヲ得タルモノハ其當時

届出ヲ爲スモノト否トナ問ハス其儘免役ニ屬シ抽籤翌日

以後ニ係ルモノヨリ新徵兵令第貳拾貳條第七項ニ據リ更

ニ徵集スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○達甲第五拾號十七年十二月五日陸軍省達

府縣 沖繩札幌根室
ノ三縣ヲ除ク

左ノ通各鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

豫備役歩兵ノ儀豫備軍後備軍編制條例第拾貳條ニ依リ各
其本隊ニ召集可致成規ニ候處師管内疆域改正且諸隊編制
替ニ因リ其師管内ニ召集スヘキ本隊ナキモノハ其師管内
最寄ノ隊へ召集シ戰時定員ニ不足スル隊ニ在テハ同師管
又ハ他ノ師管最寄府縣ノ豫備兵ヲ以テ補足スヘキ儀ト可
心得此旨相達候事

○第壹号十八年一月十二日文部省達

府縣ニ於テ徵兵事務條例第十六條但書ニ據リ生徒へ在學
證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ラシムヘシ此旨相
達候事

書式用紙公用野紙紙質適宜

族 籍

姓 名

年 齡

右ハ本校何學科第何級修業中ノ生徒ニシテ既ニ幾箇年ノ
課程ヲ卒リタル者ナリ依テ之ヲ證明ス

年 月 日 何府縣立何學校長姓名印

○第拾號十八年五月二十一日布達

明治十七年七月第拾八號布達徵兵事務條例第八十九條中「
郡區長」ノ三字削除ス

右布達候事

○朝鮮國行步規程犯者處分法(第一編七百八十五丁續)
○第貳號十八年一月三十一日布達

朝鮮國間行里程取極約書附錄別紙ノ通訂定ス
右布達候事

朝鮮國間行里程取極約書附錄

茲ニ日本曆明治十六年七月二十五日 取極タル本約書第三
條ニ依リ今年更ニ擴開スヘキ間行里程ノ境界ヲ兩國委員
會同議定シテ左ニ開列ス

仁川港

南ハ南陽水原龍仁廣州ヲ限ル

東ハ京城東中浪浦ヲ限ル

西北ハ坡州交河通津江華ヲ限ル

西南ハ永宗大阜小阜ノ各島ヲ限ル

元山港

北ハ永興ヲ限ル

西ハ文川ノ終境ヲ限ル

南ハ淮陽通川ヲ限ル

釜山港

東ハ南倉ヲ限ル

北ハ彥陽ヲ限ル

西ハ昌原馬山浦三浪倉ヲ限ル

南ハ天城島ヲ限ル

右確實ナルヲ證シ兩國ノ委任大臣記名調印シ以テ朝鮮國
間行里程取極約書ノ附録ト爲ス者ナリ

大日本國明治十七年十一月二十九日

委任大臣辨理公使 竹添進一郎 印

大朝鮮國開國四百九十三年十月十二日

委任大臣督辦交涉通商事務金宏集 印

○清國及朝鮮國在留日本人取締規則 (第一編七百八十九丁ノ續)

○第二十六號十八年八月十八日布告

明治十六年三月第九號布告清國及朝鮮國在留日本人取締規
則第一條左ノ通改正ス

第一條 清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ在留ノ日本人該地方
ノ安寧ヲ妨害セントシ若クハ風俗ヲ壞亂セントスル者
又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害シ若クハ風俗ヲ
壞亂スルニ至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上三年以
下在留スルコトヲ禁止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期
限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシルコトヲ得
右奉 勅旨布告候事

○ 証券條例

○ 第貳拾四號十七年九月二十日布告

大藏省証券條例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

大藏省証券條例

第一條 大藏省証券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省証券ハ無記名利付定期拂コシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

第三條 大藏省証券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省証券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹万圓ノ五種ニ別テ其仕拂期限ハ三ヶ月六ヶ月九ヶ月トス但其仕拂期日ハ各証券面ニ記載スヘシ

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サ、ルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記号番号及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番号及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セザルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若シハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

○舊銅貨通用禁止

○第貳拾六号十七年十月二日布告

舊銅貨天保通寶來ル明治十九年十二月限通用ヲ禁止ス

右奉 勅旨布告候事

○第貳拾三号十七年十月二日布達

舊銅貨天保通寶來ル明治十九年十二月限通用禁止相成候

ニ付テハ新銅貨ニ交換ヲ要スル者ハ東京ハ出納局大阪ハ

同局出張所其他ハ地方廳へ右期限内ニ申出ツヘシ期限後

ハ交換ヲ爲サス

右布達候事

○墓地及埋葬取締規則

○第貳拾五号十七年十月四日布達

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限
ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘ
キモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋
葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬
又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ク

ヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取扱ケ内務卿ニ届出ヘシ
右布達候事

○第八十二号十七年十月四日達

警視廳府縣

今般第二拾五号ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

○乙第四拾号十七年十一月十八日内務省達

府 縣

本年第貳拾五号布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ従前許可セラレタル者ニ限ル

但己ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ

障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス
第六條 火葬場ハ人家及人民濶幅ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戸長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族官位勳爵法号及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ

埋葬又ハ火葬セント欲スルキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十貳條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレバ埋葬火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ

○西洋形船舶検査規則

○第三拾號十七年十二月二十二日布告

西洋形船舶検査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

西洋形船舶検査規則

第一條 西洋形船舶海軍艦船ヲ除クハ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受ク

ヘシ但登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニアラス

第二條 船舶検査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條 検査所所在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所ニ願出ヘシ

第四條 検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ検査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル検査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル検査證書ヲ交付ス但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

- 一 番號
- 一 船名
- 一 船主氏名
- 一 定繫場名
- 一 登簿噸數
- 一 端船其他必要ノ所屬品

- 一 航行シ得ヘキ場所ノ定限
- 一 證書有効期限
- 一 汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ
 - 一 公稱馬力
 - 一 汽機ノ種類
 - 一 汽罐ノ種類
 - 一 最大汽壓
 - 一 旅客定員
- 第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ
- 第九條 検査證書ノ效力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス
- 第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ
- 第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理

由テ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條 船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船体若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ

出航シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條 第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

○第貳拾九号十七年十二月二十二日布達
今般第三拾号布告ヲ以テ西洋形船舶検査規則制定候ニ付

テハ在來ノ船舶ハ明治十九年六月三十日迄ニ検査ヲ受ク
ヘシ

右布達候事

○第十五号十八年四月十三日農商務省達

明治十七年^{十二}月^{十二}第三十号布告西洋形船舶検査規則制定相
成候ニ付テハ同規則第貳拾壹條ニ依リ船舶検査施行手續
及ヒ船舶検査細則別冊ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行
ス

但明治十三年^{十一}月^{十一}内務省乙第四拾五号達ハ本文月日ヨ
リ廢止ス

右相達候事

船舶検査施行手續

第一條 西洋形船舶検査規則ニ依リ検査スヘキ船舶ハ總
テ此手續并ニ検査細則ニ照ラシ取扱フヘシ

第二條 検査規則第四條ニ掲クル船舶ノ検査ハ管船局ヨ
リ便宜ノ地ヘ検査員ヲ派出シ之ヲ検査スヘシ

第三條 検査員ハ定時臨時ヲ問ハス毎検査詳細ノ報告書
ヲ管船局(不登簿船ハ其地方廳)ニ差出スヘシ

但初度ノ検査ニ係ルモノハ第一号書式次回以後ハ第
二書式ニ據ルヘシ

第四條 管船局若シハ地方廳ニ於テハ前條ノ報告ニ依リ
第三号書式ノ検査證書ヲ作り管船局ハ検査所ヲ經由シ
地方廳ハ便宜之ヲ船主若シハ船長ニ下渡スヘシ

但シ検査規則第四條ニ掲クル船舶ニハ其船籍地方廳
ヲ經テ之ヲ下渡スヘシ

第五條 検査證書中航路ノ定限ハ左ノ五項ニ區分ス

- 一 外國航船
- 一 內國航船 (朝鮮南界ノ鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ

至ル沿岸及ヒ薩噠諸港ニ航スルモ
ノモ包含ス)

- 一 近海航船 (沿岸ノ各港間ヲ往復シ又ハ内地ト離島ノ間ヲ通航シ特ニ其航路ノ區域ヲ定メタルモノ)

- 一 内海航船 (紀伊海峽ヨリ以西下ノ關以内ヲ限リ通航スルモノ)

- 一 平水航船 (湖川港灣内ヲ限リ通航スルモノ)

第六條 検査スヘキ船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第四号書式ノ願書ヲ出サシメ受付ノ順席ニヨリ成ヘク速ニ臨檢スヘシ但時宜ニヨリ検査員ノ見込ヲ以テ順序ニ拘ハラス検査スルコトアルヘシ

第七條 検査規則第三條ニ掲クル船舶ハ臨時検査ヲ除ク外前ノ検査ヲ受ケタル検査所ヘ次回ノ検査ヲ願出サシ

ムヘシ

第八條 検査證書ヲ受有スル船舶其航路ヲ讓スル等ノ事故ニ由リ次回ノ検査ヲ他ノ検査所ヘ願出ルルハ該検査所ヨリ前ノ検査所ヘ照會ノ上之ヲ検査スヘシ但検査員ニ於テ照會ヲ必要トセサルハ此限ニアラス

第九條 検査執行ノ際ハ成ヘク船主船長機關手等ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十條 検査ノ上修繕若クハ改造ヲ爲サシメントスル時ハ其事項ヲ書面ニ記載シ之ヲ船主若クハ船長ニ交附シ其副書ヲ保存シ置クヘシ

第十一條 修繕若クハ改造ヲ命シ其工事中必要ト思惟スルルルハ検査院ニ於テ便宜之ヲ監査スヘシ

但船主ノ都合ヲ以テ船體機關等ヲ新造又ハ修繕スルニ方リ特ニ臨檢ヲ請フモノアルハ事務ノ都合ニ依

リ之ヲ許可スヘシ

第十二條 修繕若クハ改造ヲ命シ其工事落成ノ上検査ヲ爲スルハ當初之ヲ命シタル検査員必ス之ヲ擔當スヘキモノトス

第十三條 定時臨時ニ關セス検査員ニ於テ運航ヲ差止め修繕等ヲ命シタルキハ本船現有ノ検査證書ヲ引上ケ置クヘシ

第十四條 検査規則第十三條ニ依リ出願ヘ船舶ニ於テ其修繕ノ箇所ハ勿論場合ニ依リ其他部ヲモ精密検査ノ上既ニ受有ノ検査證書面ニ變更ヲ生スルキハ該證書ニ報告書ヲ附シ管船局(不登簿船ハ其地方廳)ヘ差出シ其證書ノ書換ヲ請フヘシ然レモ検査ノ上其證書面ニ變更ナキキハ該證書ノ裡面ニ其要旨ヲ記シ検査員認印ノ上直ニ運航ヲ許可スヘシ

但船主ノ都合ニ依リ本船入渠等ノ上之カ検査ヲ請フモノアル時モ亦本文ニ準スヘシ

第十五條 検査員検査終了ノ上運航ニ堪ヘキモノト認めタルキハ船主若クハ船長ノ請願ニ依リ外國航船ヲ除クノ外第五号書式ノ検査假證書ヲ交付シ其運航ヲ許可スルコアルヘシ但シ該假證書ノ効用ハ三箇月ヲ以テ限リトス故ニ右期限内必ス本証書ト交換スヘキモノトス

第十六條 農商務省検査員ハ登簿船不登簿船ヲ問ハス検査證書ノ有効期限内ト雖モ衝突乗上ケ其他必用ト認めタル場合ニ於テハ直ニ本船ニ臨檢シ其所見ノ狀況ヲ管船局ヘ報知スヘシ

第十七條 夜間衝突ニ係リシ船舶ヲ検査スル時ハ特ニ其船燈及ヒ隔板ノ位置大小方位等ヲ精密ニ検査シ又一方(相手方)ノ船舶其近傍ニ碇泊セルキハ全様之ヲ検査シ

精細ノ報告書ヲ管船局へ差出スヘシ

但シ該報告書ハ衝突事件審問ニ關シ十分ノ證據トナルヘキヲ以テ極メテ遺漏ナカラシムヘシ

第十八條 検査員ハ船體船具機關等ノ現狀ニ依リ六月若クハ十二月間ノ運航期限及ヒ此手續第五條ニ掲クル航路ノ定期ヲ定メ之ヲ報告書ニ記入スヘシ

第十九條 検査ノ爲メ使用スヘキ物品ニシテ本船若クハ工場ニ備ヘアルモノハ便宜検査員ヨリ其主務者ニ談合シ之ヲ使用スルヲ得ヘシ

第二十條 検査所及ヒ地方廳ニ於テハ水壓唧筒驗壓元器等検査ニ關シ必用ノ器具ヲ備ヘ置キ汽罐ノ壓力等ヲ定ムルハ都テ該驗壓元器ニ依ルヘシ

第二十一條 検査所及ヒ地方廳ニ於テハ検査簿ヲ備ヘ置キ每船第一号書式ノ件名ハ勿論其他ノ要件ヲ検査ノ都

度記入スヘシ

第二十二條 検査証書ヲ下スルニ方リ舊証書ハ検査員ニ於テ取纏メ之ヲ管船局若クハ地方廳ニ返付スヘシ

第二十三條 東京海上保險會社ノ保險中ニ係ル船舶ハ検査員ニ於テ特ニ検査セラルモ検査合格ト看做スヲ得ヘシ

第二十四條 外國航船及ヒ内國航船ヲ除クノ外諸船ノ検査ハ其航路ノ難易ニ依リ検査細則ノ條款ニ照シ之ヲ斟酌スルヲ得ヘシ

(以下検査報告書式及ヒ船舶検査細則ハ略ス)

第五號十八年四月九日農商務省告示

○明治十七年十二月 第三拾号布告西洋形船舶検査規則第二條船舶検査所ノ儀ハ當分左ノ場所ニ設置ス

東京 大坂 函館 神戸

但横濱入港ノ船舶ハ當分東京檢査所ニ於テ管理ス
右告示候事

○第拾四号十八年七月四日農商務省告示

明治十七年^{十二}月^{十二} 第三十号布告西洋形船舶檢査規則第五條
ニ掲グル汽船(登簿免狀ヲ受有セサル)檢査ノ儀ハ東京府
下ニ限リ當省ニ於テ直管候條右檢査ハ東京船舶檢査所へ
願出ヘシ

右告示候事

○船舶製造規則

○第拾六号十八年七月八日布告

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ
禁止ス

右奉 勅旨布告候事

○ 火藥取締規則

○第三拾壹号十七年十二月二十七日布告

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥棉火藥、ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞、其他劇發質ノ物ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス

第二條 火藥類火藥類 火藥劇發火ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京府ハニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏

品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳 東京府ハニ於テ火藥類ノ檢査ヲ必要ト認
警視廳

ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ
檢査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥
類ノ拂下ケヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコ
トアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ
於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記
シ證書アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル
者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取

リ置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ
限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未満若クハ
白痴風癩ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ
免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メ
ニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡
シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受
ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコト
ヲ許サス

小銃用 火藥 三百目 雷管 五百個

船舶設備銃砲用 大砲一門ニ附 火藥 五十發分 導火管類 七十個
小銃一挺ニ附 火藥 百發分 雷管 百五十個

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル

者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ證書アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳東京府ハノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏

スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添へ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱汽船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ

不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサズ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木曲尺六尺以上ニシテ五寸角以上ノモノヲ建ツ可シ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス

第二十條 坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ但貯藏ノ數量ハ火藥貳百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ超ルコトヲ許サス

第二十一條 烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨ

リ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帯シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ箆包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタラ小旗陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺縱三尺五寸横五尺ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年八月第八第貳百九拾貳号布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルコハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第一百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五十八條第五十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥

類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ル可シ
一從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟

火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又従前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

○第壹号十八年一月六日達

警視廳

府 縣 東京府
ヲ除ク

明治十七年^{十二}月^{十二} 第三拾壹号布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ管轄廳ニ於テ届出方左ノ通可相心得此旨相達候事

- 一 火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名及火藥庫設置ノ地名番号ヲ記シ内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ
- 一 營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ毎年一月内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

○ 爆發物取締罰則

○第三拾貳號十七年十二月二十七日布告

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

右奉勅旨布告候事

爆發物取締罰則

- 第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメザル者ハ死刑ニ處ス
- 第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス
- 第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若シハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
- 第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル

者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムテントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

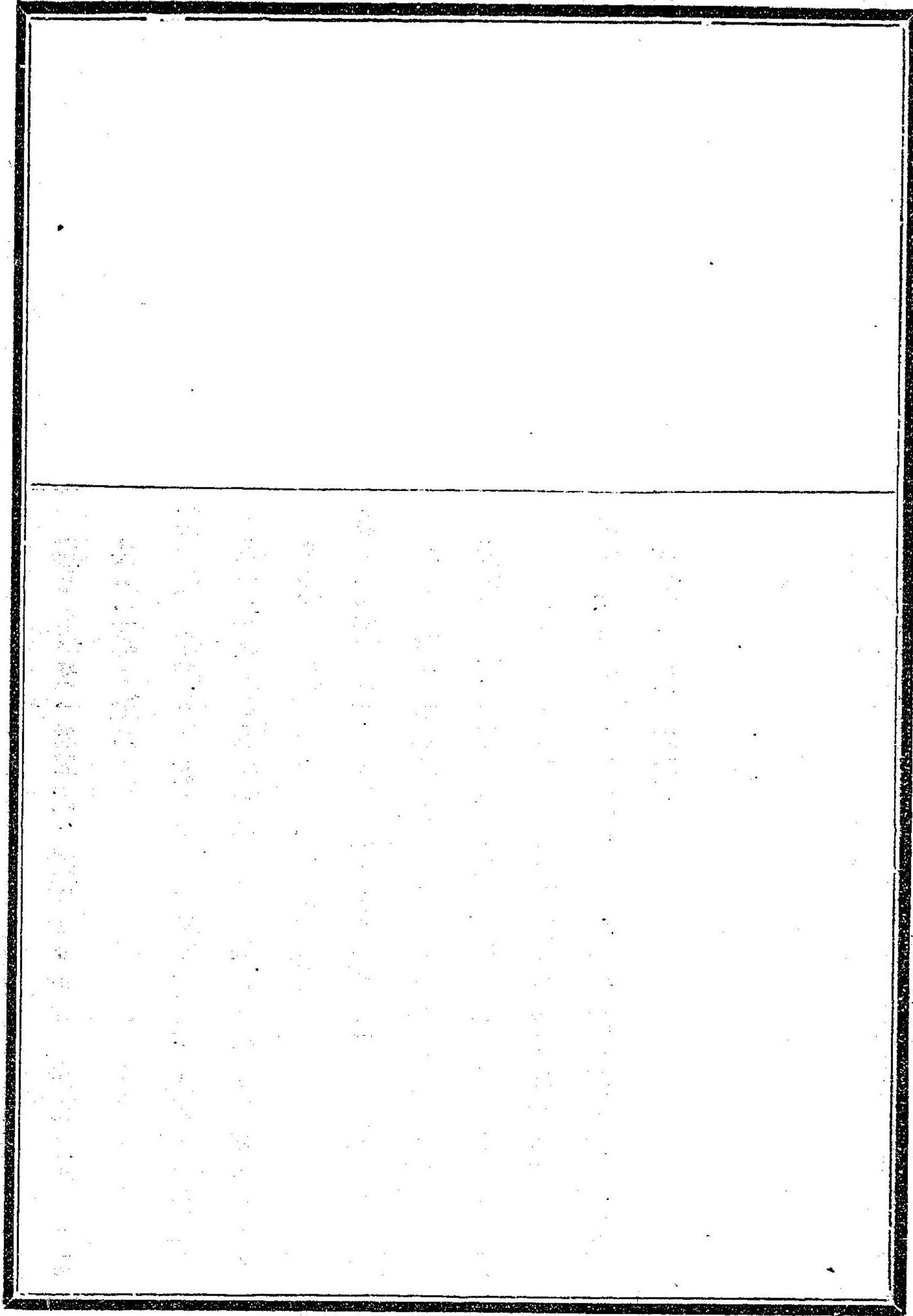
第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隠

避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

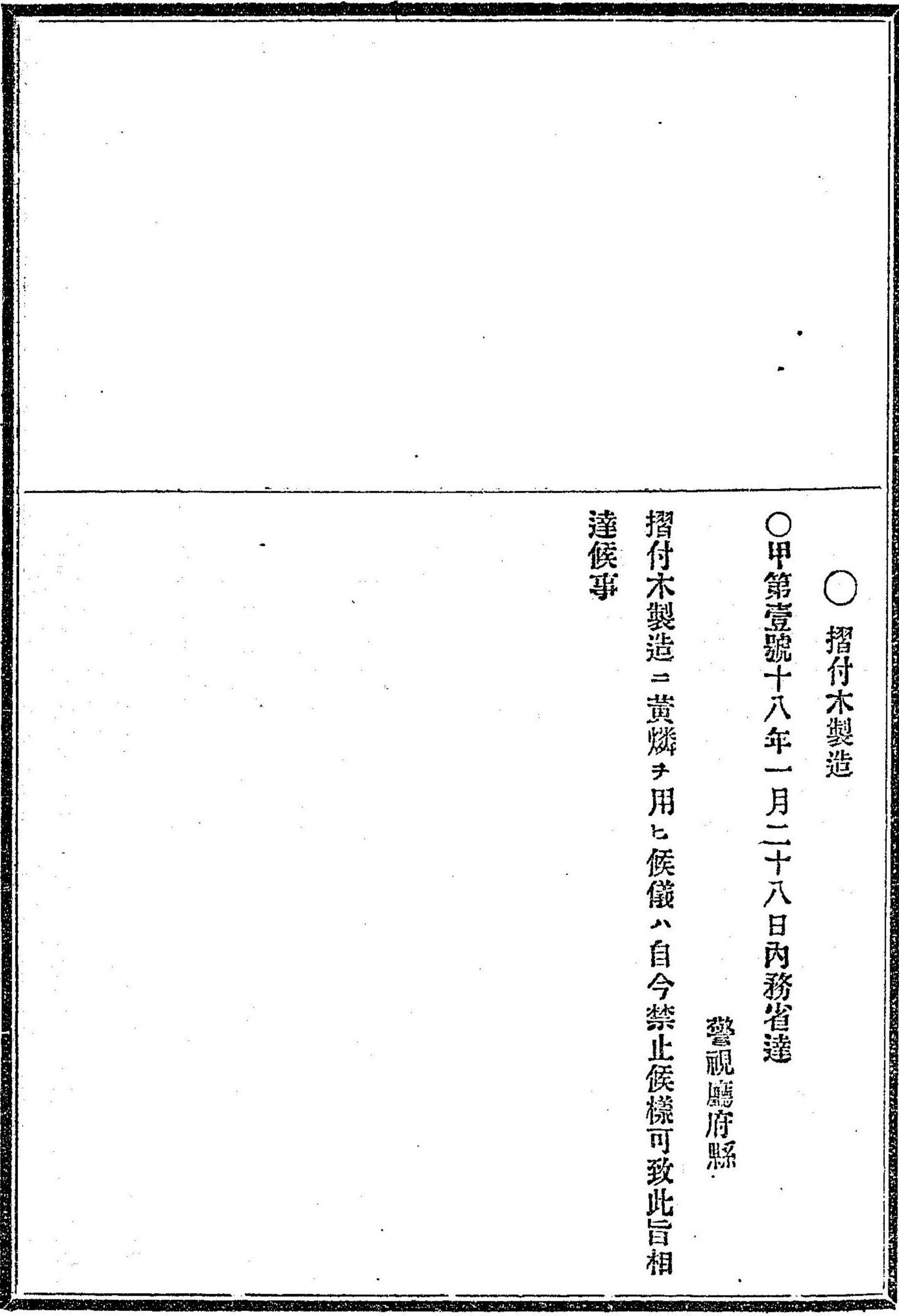


○摺付木製造

○甲第壹號十八年一月二十八日內務省達

警視廳府縣

摺付木製造ニ黃燐ヲ用ヒ候儀ハ自今禁止候様可致此旨相達候事



○專賣特許條例

○第七號十八年四月十八日布告

專賣特許條例別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

一但明治四年四月七日布告專賣略規則及明治五年三月

五號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

專賣特許條例

第一條 有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セント欲スル者

ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クヘシ

農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專

賣特許證ヲ下付スヘシ

第二條 專賣特許ヲ願出ルコトハ其願書ニ發明ノ明細書并

必要ノ圖面ヲ添フヘシ但時宜ニ依リ其現品又ハ雛形ヲ

差出サシムルコトアルヘシ

第三條 專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ
十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 左ノ諸項ニ觸ル、モノハ專賣特許ヲ願出ルコト
ヲ得ス

一 他人ノ既ニ發明シタルモノ
但他人ヨリ讓受ケタルモノハ此限ニアラス

二 專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレテ
ルモノ

三 治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ
四 醫藥

第五條 軍用ニ必要ナリト認め又ハ廣ク用ヒシムルコト
ヲ必要ナリト認めタル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許
各與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコト

アルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認めタル報酬
金ヲ其發明者ニ下付スヘシ

第六條 專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳
ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以内
ニ農商務省ニ届出ヘシ

第七條 專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキ
農商務卿ニ願出ヘシ

第八條 專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許
願出ルコトヲ得但追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユ
ルコトヲ得ス

第九條 專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲ス
ル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認
ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト合セテ使用スルノ特
許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬
金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムヘシ

第十條 專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限
ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記スルコトヲ得サルモノハ
其上包等ニ標記スヘシ

第十一條 專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務
省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十二條 專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ
三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第十三條 專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ
農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許
證ヲ返納セシムヘシ

- 一 第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ
- 二 願書并明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見
シタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

- 一 專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公
行セス又ハ事故ヲ届出スシテ二年間之ヲ中止シタ
ルトキ
- 二 專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ
タルトキ

第十六條 專賣特許證ヲ下付シタルトキ及專賣特許無効
ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ
農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ

第十七條 專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ
但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付スヘシ

一 五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾圓

二 十年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾五圓

三 十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金貳拾圓

四 讓與分與ヲ願出ル者 金五圓

五 追加特許ヲ願出ル者 金五圓

六 專賣特許證ノ再渡ヲ願出ル者 金壹圓

第十八條 專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願
出ルコトヲ得ス

第十九條 專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴
シ并要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サ、
ルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 專賣特許ノ發明品ヲ偽造シ若クハ外國ヨリ輸

入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一
年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

第二十一條 專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル
物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハジキ記
號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ
二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十二條 第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ヲ情
ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處
ス

第二十三條 第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於
テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣
人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之
ヲ給付ス

第二十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條 第六條第二項第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ル者ハ一圓以上一圓九十五錢ノ科料ニ處ス

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者コハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條 專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官コ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

明治四年四月七日專賣規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年三月百五號布告但書ニ依リ届出タル事物

ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得

本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ケ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ金額ヲ納ムヘシ

○第五號十八年四月十八日布達

今般專賣特許條例制定候ニ付專賣特許手續別紙ノ通相定

右布達候事

專賣特許手續

第一條 專賣特許ニ關スル願書及届書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スヘシ

- 第二條 專賣特許ヲ願出ルトキハ壹個ノ發明ニ付願書ニ
 通明細書并圖面各三通ニ免許料ヲ添フヘシ
- 二人以上協同シテ一個ノ發明ヲ爲シタルトキハ其願書
 及明細書等ニ連署スヘシ
- 第三條 明細書及圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地
 方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ
- 第四條 專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
 - 一 發明ノ名稱
 - 二 專賣特許ノ年限
 - 三 條例ニ牴觸セザル旨
 - 四 願書明細書等ニ相違ノ事實ナキ旨
- 第五條 明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
 - 一 發明ノ目的及性質ノ大體説明
 - 二 圖面ノ解説(圖面ヲ添フルルハ)

- 三 發明ノ製作、構造、組成、及使用ノ方法等ニ關スル
 詳細ノ説明
- 四 發明ノ區域
- 五 發明人ノ族籍住所氏名
- 第六條 圖面ニハ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名又ハ數字
 ヲ付シテ明細書ノ説明ト符合セシムヘシ
- 第七條 條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出
 ルトキハ願書ニ通ニ專賣特許證、約定書寫、及免許料ヲ
 添フヘシ
- 第八條 條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第
 二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ
- 第九條 條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ
 其理由ヲ詳記シタル願書ニ通ニ差出スヘシ
- 第十條 條例第六條第二項及第十二條氏名變換ノ届出ヲ

爲ストキハ農商務省ニ於テ專賣特許證ニ裏書ヲ爲スヘシ

第十一條 條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再渡ヲ願出

ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ免許料ヲ添フヘシ

第十二條 專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脱漏

又ハ過誤アルコトヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セント

欲スルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ通テ差出スヘシ

但其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生

スルモノハ之ヲ願出ルコトヲ得ス

第十三條 專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發

明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ届出ヘシ

第十四條 條例第四條第一項ニ觸レ專賣特許無効ニ歸シ

タル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ

前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス

第十五條 附則第二項ニ依リ使用特許ヲ受ケント欲スル

者ハ其來歴ヲ詳記シタル願書ニ通テ差出スヘシ

○第六号十八年四月廿三日農商務省告示

專賣特許條例本年第七号ヲ以テ布告相成候ニ付右ニ關

スル諸願書式及明細書文例左ノ通相定候條此旨告示候

事(以下諸願書式略ス)

○第七号十八年四月廿三日農商務省告示

專賣特許條例第十條發明品ノ標記左ノ通相定候條此旨

告示候事

專賣特許何年何月何日ヨリ何年間

專賣何年何月何日、何年間

專賣以下年月日ノ數

字ヲ記スヘシ 例ヘハ明治十八年七月一日ヨリ五年間專賣特許ヲ

受ケタルハ每馬一ハ、ハ、ハ、ハト記スカ如シ
前三項ノ内專賣人ノ便宜ニ依リ撰擇シテ標記スヘシ但
縦若クハ横ニ一行又ハ二行ニ記シ或ハ圓形楕圓形等ニ
一行ニ記スルモ妨ケナシ

○驛傳營業準則

○第三拾五号十七年十一月二十六日農商務省達

警視廳府縣

明治八年五月三十日陸運會社解社以後驛傳取締上一定ノ
規則不相立候所行旅ノ不便運輸ノ不利不少候趣ニ付今般
左ニ驛傳營業取締準則相示候條右準則ニ基キ驛傳營業取
締規則取設ケ農商務卿へ届出ツヘシ此旨相達候事
但該取締規則取設ケヲ要セスト認ムルトキハ其事由詳
細申出ツヘシ

驛傳營業取締準則

第壹條 驛傳營業取締ノ爲メ驛ニ據リ該營業人(陸運受
繼立及旅人宿營業)ヲ便宜分割シテ其組合ヲ爲サシム
并ニ陸運稼業人)ハ別ニ其組合ト爲スヲ得
ヘシ但驛ニ據ル能ハサルモノハ別ニ其組合ト爲スヲ得
ヘシ

第貳條 驛ニハ組合營業人ヲシテ驛傳取締所ヲ設立セシムヘシ但驛ニ據ラサル組合ニ於テハ驛外ノ地ニ設立セシムヘシ

第三條 驛傳取締所ハ驛傳營業ノ取締ヲナシ又驛傳營業ヲ兼スルヲ得ヘシ

第四條 驛傳營業人組合ニハ驛傳取締人ヲ置カシムヘシ

第五條 驛傳取締人ハ其組合及驛傳取締所ノ事務ヲ掌理スヘキモノトス

第六條 驛傳取締人定員撰舉方法及事務條項ハ管轄廳ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ

第七條 各組合營業人ニハ規約書ヲ設ケシメ認可ノ上農商務省ニ届出ツヘシ

第八條 組合營業人規約書ニハ左ノ諸項ヲ詳記セシムヘシ

一 諸賃錢定額

一 驛傳取締所及組合費用并ニ驛傳取締人手當等收支方法

一 驛傳取締所及組合事務條項

一 前諸項ノ外營業上必要ノ件

第九條 驛傳營業人組合及驛傳取締所ノ費用并ニ驛傳取締人ノ手當等ハ組合營業人ニ負擔セシムルヲ得ヘシ

第十條 驛傳營業人ニシテ組合外ノ地ニ到リ營業スルトキハ其地組合規則ニ從ハシムヘシ

第拾壹條 驛傳營業人ニ非サル者ニハ賃錢若クハ手数料ヲ受ケテ驛傳業ヲ爲サシムヘカラス

第拾貳條 此準則ニ據テ定ムル驛傳營業取締事務條項ノ外各種驛傳營業人取締細則ヲ設クヘシ

第拾三條 此準則ニ基キ警視總監府知事縣令ニ於テ取設

ケタル取締規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰ス
ルノ外營業ヲ停止シ又ハ禁止スヘシ

○同業組合準則

○第三拾七號十七年十一月廿九日農商務省達

府 縣

同業者組合ヲ結ヒ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ
弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不尠候所往々其目的ヲ達スルニ
能ハサル趣ニ付今般同業組合準則相定候條向後組合ヲ設
ケ規約ヲ作り認可ヲ請フ者アルハ此準則ニ基ツキ可取
扱此旨相達候事

但認可ノ都度當省ニ届出ツヘシ

同業組合準則

第壹條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營
業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルハ適宜ニ
地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規
約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第貳條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第壹項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第貳項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルルハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ

第七條 規約ヲ改正スルルハ更ニ認可ヲ請フ可シ

第八條 分立又ハ合併スルルハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フ可シ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルルハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルルハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

○ 醬油稅則

○ 第拾號十八年五月八日布告

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月二日ヨリ施行ス

〔但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根

室縣ハ當分之ヲ施行セス

右奉 勅旨布告候事

醬油稅則

第一條

凡ソ醬油溜リヲ併稱スヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管
廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條

免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 製造高壹石ニ付 金壹圓

第三條

免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ
管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四條

醬油製造ノ廢業スルトキハ管廳ニ届出免許鑑札ヲ還納ス
ヘシ

第五條

免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條

營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一
日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ
開業スル者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ
納ムヘシ

第七條

造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其
節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第八條

醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第九條

廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ届出檢
査ヲ受ク其石數ニ就キ納稅スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡
又ハ二箇所以上ニ於テ製造スル者其一箇所以上ヲ廢シ尙

ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨届出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ検査ヲ受クヘシ

第十條

検査未済ノ醬油ト検査既済ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日以内ニ其旨管廳ニ届出更ニ總石數ヲ以テ検査ヲ受ケ納稅スヘシ

第十一條

検査既済ノ醬油其造石稅納期內ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢棄ニ屬シ若クハ腐敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條

外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ニ於テ検査ヲ受ケ置輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他ノ證憑ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ差出シ其

造石稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條

醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油仕込帳

醬油賣上帳

第十四條

醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十五條

醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條

醬油製造人ハ毎年一月三十一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ヲ管廳ニ届出ヘシ新ニ開業セシ者ハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以内ニ之ヲ届出ヘシ但見込石數ノ増減並ニ製造方法ノ變換ハ其時々届出ヘシ

第十七條

醬油製造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ管廳ニ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第十八條

醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サス

第十九條

醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第二十條

醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十一條

醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一箇年壹斗五升ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條

醬油製造人ノ醬油仕込高並ニ仕込ニ屬スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十三條

主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證據取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證據ヲ携帯スヘシ

第二十四條

第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス

第二十條ニ違ヒ卸賣人小賣人ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十五條

醬油ヲ隱蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ハラス其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス但檢査既濟ノ醬油ト檢査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隱蔽シ

タル者ハ其總石數ニ就テ論ス

第二十六條

第八條第九條第十條ノ檢査ヲ受ケスシテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ追徴ス

第二十七條

第十八條ニ違ヒ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ製造場ヲ貸シタル者又ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス

第二十八條

第五條ニ違ヒ免許鑑札ヲ賣買貸借及ヒ讓受讓渡シタル者第十三條ニ違ヒ帳簿ヲ調製セス若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ檢査ヲ受ケスシテ容器ヲ使用シタ

ル者又ハ第十五條ニ違ヒ開封ヲ爲シタル者ハ一圓以上二圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條

第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條

醬油製造人ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第拾四号十八年七月六日布達

本年五月第拾號布告醬油稅則第十二條ニ據リ外國ニ輸出ス

ル醬油ニ對シ造石税金下戻ノ手續左ノ通相定ム

第一項 外國輸出ニ係ル醬油ノ税金下戻ヲ請フトスル

トキハ甲號書式ノ願書ニ通テ輸出港稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ經テ檢査濟ノ證明書ヲ受クヘシ

第二項 造石税金ノ下戻ヲ請フコトハ乙號書式ノ願書ニ

輸入港在留領事ノ檢印ヲ受ケタル陸揚免狀若クハ其他ノ書類領事不在ノ港ニ於テハ該港稅關ノ通關證及書若クハ其陸揚セシ證憑トナルヘキ書類及當初輸出港稅關ノ證明書ヲ添ヘ該稅關ニ差出スヘシ

第三項 外國ニ輸出シ造石税金ノ下戻ヲ受タル醬油ヲ更ニ輸入スルトキハ丙號書式ノ届書ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

右布達候事

甲號書式

檢査願書

一 醬油

記号

箇數

石數

造石税金

製造地

右ハ何國何船ヲ以テ何國何港ニ輸出致候ニ付御檢査相願候也

輸出人住所

年月日

姓名

某税關長宛

乙號書式

造石税金下戻願書

一 醬油

何石

此造石税金 何圓

右ハ明治何年何月何日何國何港ニ輸入致候ニ付該造石税金御下戻有之度因テ輸入港陸揚免狀（或ハ陸揚ノ證憑書）及檢査濟御證明書共相添此段相願候也

輸出人住所

年月日

姓名

某税關長宛

丙號書式

造石税金上納書

一 醬油

何石

此造石税金 何圓

記號

箇數

造石税金下戻年月日

當初輸出港

仕出港

右再輸入致候ニ付書面ノ通造石税金上納仕候也

輸入人住所

年月日

姓名

某税關長宛

○貳拾貳號十八年五月十六日大藏省達

府 縣 函館縣沖繩縣札幌
縣根室縣ヲ除ク

本年五月第拾號ヲ以テ醬油税則公布相成候ニ付右税則
取扱心得書別冊之通定ム

但別冊ハ主税局ヨリ送付スヘシ

右相達候事

○第貳拾三號十八年五月十六日大藏省達

府 縣 函館縣沖繩縣札幌
縣根室縣ヲ除ク

今般第拾号ヲ以テ醬油税則公布來ル七月一日ヨリ施行
相成候ニ付テハ六月三十日迄ニ製成濟ノモノハ其石數
ヲ取調置クヘシ尤施行以前製造着手ノモノニシテ七月
一日以後製成スル分ハ課税スヘキニ付豫テ其膠石數ヲ
査定シ置ク可シ

右相達候事

○第貳拾五号十八年五月廿日大藏省達

府 縣 函館縣沖繩縣札幌
縣根室縣ヲ除ク

本年五月第拾号第拾壹号公布ニ依リ醬油并菓子營業人へ
下與スヘキ免許監札別紙見本之通相定ム

但見本ハ主税局ヨリ送付スヘシ

右相達候事

○第六拾七号十八年九月十九日大藏省達

府 縣 北海道三縣及
沖繩縣ヲ除ク

醬油醪ノミ貯藏場所等ノ件自今左ノ通り相心得ヘシ
醬油醪ノミ貯藏スル場所ハ製造場區域外ト雖モ稅則取扱
心得書第三項但書ニ準據スヘシ

一營業中都合ニ依リ醬油醪ヲ營業者ニ賣渡スハ差支ナシ
但本文ノ場合ニ於テハ賣渡人ヨリ其越届出シメ査檢
員ノ證明書ヲ添付シ更ニ買受人ヨリ其地ノ査檢員ニ
申出査檢ヲ受ケシムヘシ

右相達候事

○菓子稅則

○第拾壹号十八年五月八日布告

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月日一ヨリ施行ス
但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根
室縣ハ當分ニ之ヲ施行セス

右奉 勅旨布告候事

菓子稅則

第一條

菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人

菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營
業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人

菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營
業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人

菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者
ヲ云フ

第二條

菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受ク
ヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種
以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條

菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サ
ントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ
各自之ヲ携帯スヘシ

第四條

鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條

鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届

出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條

菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條

鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條

菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以
上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘ
シ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人以下アル者 一箇年 金五圓

雇人ナキ者

一箇年 金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者

一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者

一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者

一箇年 金拾圓

雇人二人以下アル者

一箇年 金五圓

雇人ナキ者

一箇年 金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者

一箇年 金七圓

雇人二人以下アル者

一箇年 金三圓

雇人ナキ者

一箇年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條

營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條

營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條

菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ
第一期 一月一日ヨリ六月三十日 其年八月三十一日限
日迄賣上金高ニ係ル分

第二期 七月一日ヨリ十二月三十 翌年二月二十八日限
一日迄賣上金高ニ係ル分 半年分ノ賣上金高三拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業
ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條

菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇入ノ員數氏名
ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳
ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條

菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ
届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條

菓子製造人ハ菓子并ニ其製造原品賣買ヲ帳簿ニ記載シ置

ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

第十五條

菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時
之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十六條

主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料ス
ルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得
但其主任タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第十七條

第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル
者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及
ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス

第十八條

第十二條第十三條ノ届書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐偽ノ記

載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條

第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帯セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條

第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條

菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シ

タルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第貳拾四号十八年五月十六日大藏省達

府 縣 函館縣 沖繩縣 札幌
縣根室縣ヲ除ク

本年五月第拾壹号布告ヲ以テ菓子稅則被定候ニ付取扱心得書別冊之通相定ム

但別冊ハ主稅局ヨリ送附スヘシ

右相達候事

○私設燈標禁止

○第拾壹号十八年六月五日布達 沿海府縣
明治五年^十月^十第三百拾貳号布達ヲ廢止シ自今燈標私設ヲ禁
止ス

但既設燈標ニシテ從前船舶ヨリ其費用ヲ徵セサルモノ
ハ來ル明治二十五年ヲ限リ廢止シ其費用徵收願濟年限
ナキモノハ此際相當ノ期限ヲ定メ更ニ工部省へ願出ヘ
シ

右布達候事

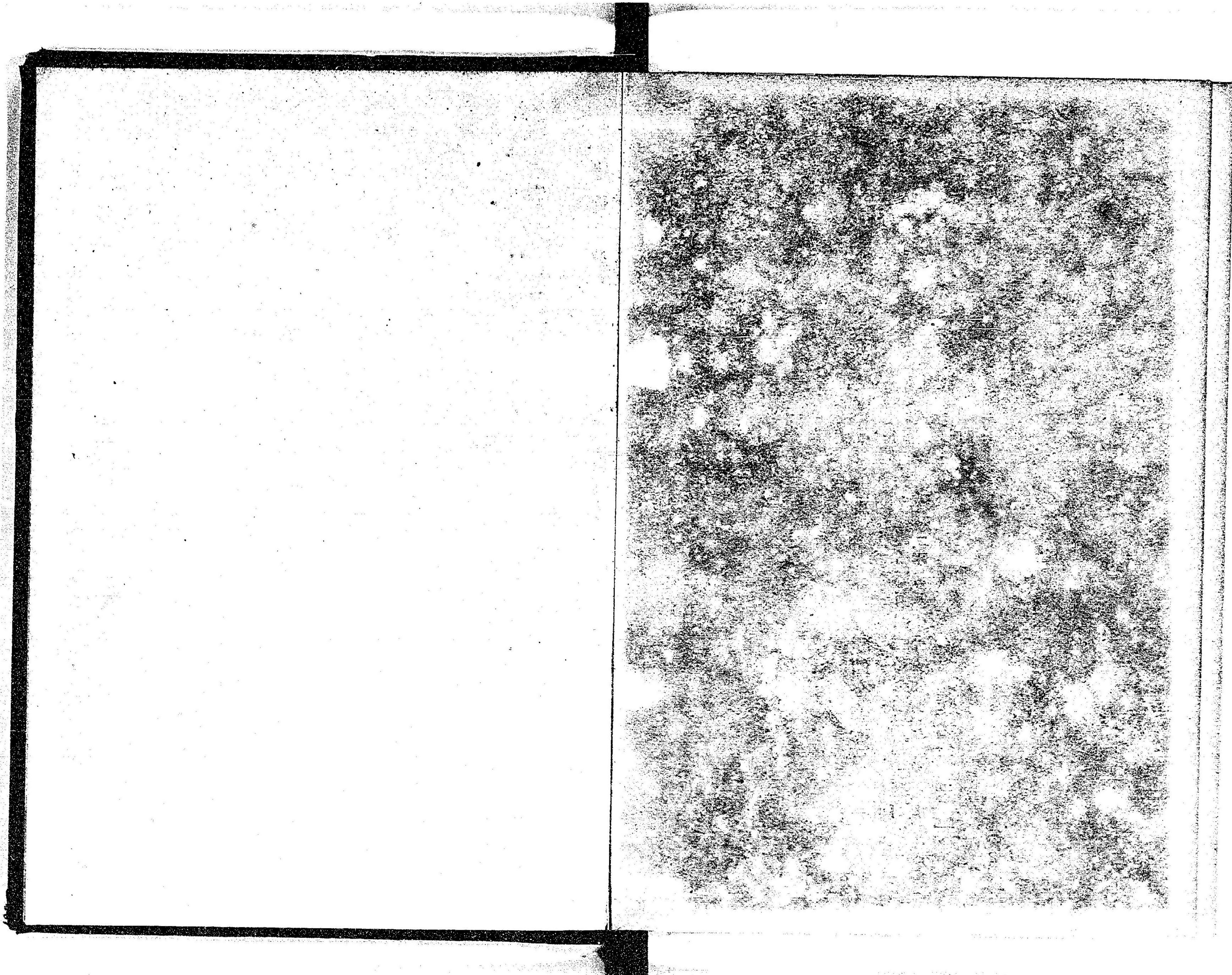
明治十八年十二月十四日出版々權屆

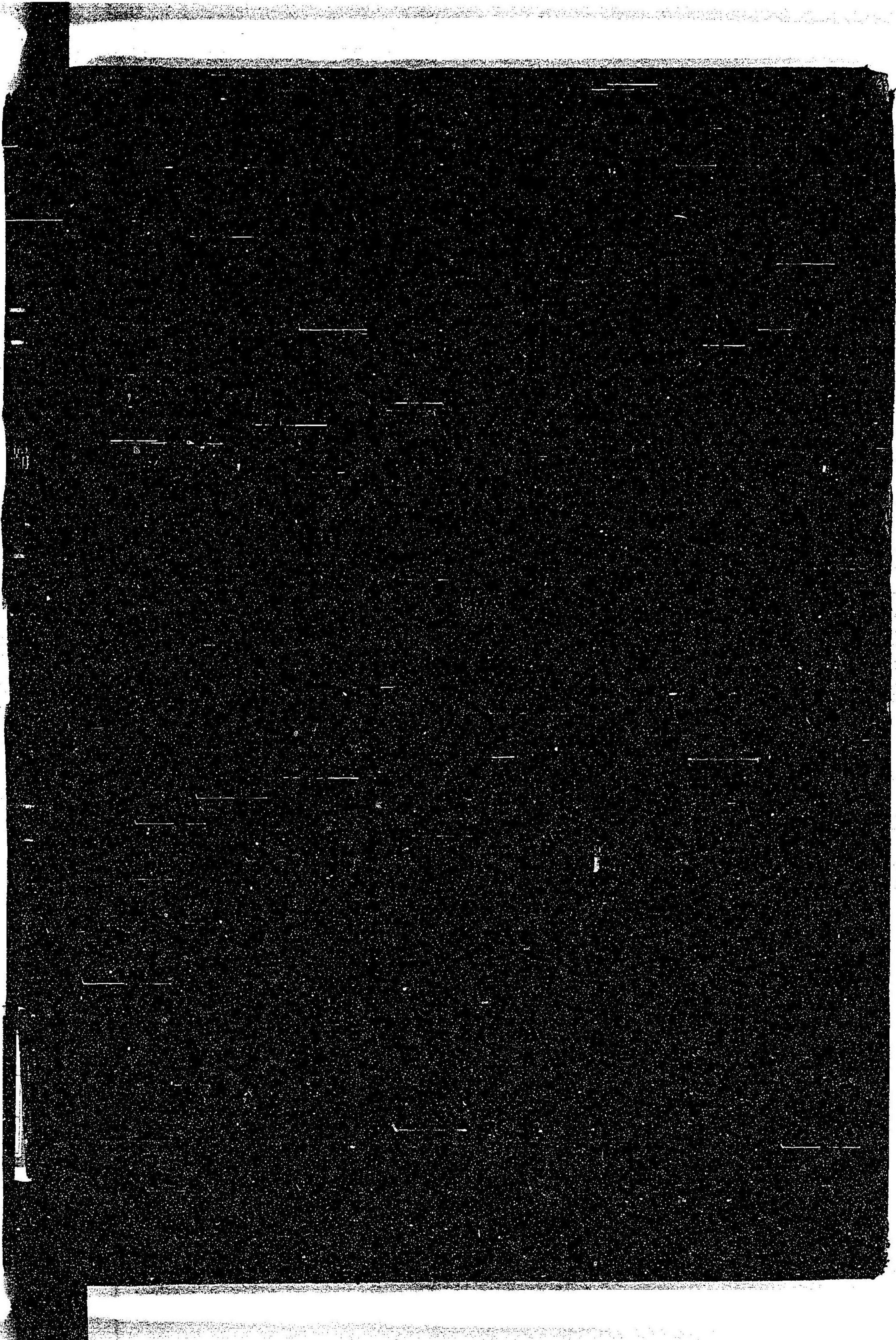
原價金七拾五錢

發兌書肆

齋藤兜羅一

德島縣阿波國名東郡德島中通町
一丁目八十九番地芳川堂活版所





32
237



